

くまがさ

創立七〇周年の記念行事である同窓会館の建設計画が、この程ようやくまとまりました。会館の建設については、昭和五年一月、学校長・PTA会長・後援会長・同窓会長の四者会談で来る七〇周年の目玉事業として、一致協力して取組むことの申し合わせがなされ、その後、同窓会建設小委員会（PTA会長、後援会長、学校教頭も顧問として参加）で、いろいろ具体的計画が練り上げられて来たものであります。最終計画によりますと、一学年四五〇名全員を収容できるホールと、その階下に同窓会資料室、会議室などを配した豪壮にして華麗な記念館であり、後記図面を原案として同窓の設計士が更に実施計画を練る予定となっております。建設費として一億八千万円が想定されています。

今後の具体的なスケジュールとし

会館建設に御協力を!!
今秋から募金開始

ては建設実行委員会の発足、道教委の建設許可手続、税務署の負税認可手続を経て今秋から募金開始、

来年九月実施予定の七〇周年記念式典に設計図と募金額の贈呈、そして昭和五九年四月工事着工、同年八月完成、学校へ引渡しという予定になっていきます。

同窓生初め湖陵関係者の絶大な御協力をお願い申し上げます。

昭和五七年八月一日



釧路湖陵高等学校長
 中村 力



釧路湖陵同窓会長
 組村 真平



釧路湖陵高校後援会長
 伊藤 正司



釧路湖陵高校PTA会長
 村上 史郎

檄

母校に七〇年の歳月が流れこの丘に集り散るもの既に一万六千余名。或いは郷土の礎石となり或いは中央に雄飛して、住い・なりわいを異にするとも、共に過した青春時代の想い出は懐しく、その哀歎は共通である。

今、同窓会、後援会、PTA、一九となり、七〇年を記念して後進のため湖陵が丘に同窓会館を建設せんとす。

時たま、母校も老朽化のため改築の気運にあり、この会館は必ずや新校舎の格調を高めるものと信ずる。

諸賢、願わくは我らを育ててくれた母校のため最大限の尽力あらんことを望むや切

同窓会顧問団

- 丹 葉 節 郎
- 米 内 富 久 司
- 古 谷 武 一
- 米 沢 悟 空 翁
- 坂 下 忠 隆
- 中 村

くし び 神秘を削る丈夫の 同窓会館を

建設実行委員会の結成へ

昭和五十五年七月に、同窓会館建設へ向けて、具体的な動きが始まった。同窓会館建設小委員会の結成である。これは、その前年八月、同窓会総会の席上で、組村新会長から、同窓会館建設の宣言があつて、それを受けて、つくられ

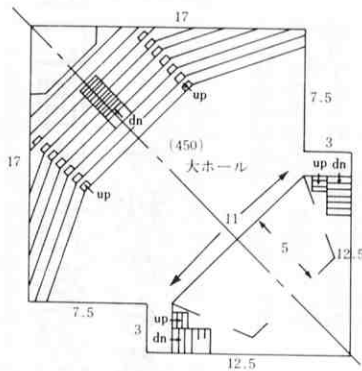
たものである。以来、今日までにかなりの曲折を経てきたが、前号において、これまでの経過について、建設小委員長の久本甫氏（湖陵七期）の報告として述べられている状況である。加えて、検討素材として、同窓生の設計家毛綱氏によって、同窓会館の青写真が示された。これによって、これまでどちらかというところ、頭の中のプランニングに留まっていた同窓会館について、同窓生諸兄に大きな関心を抱かせることになったと言えよう。青写真の示す例は、道新からの寄贈の土地が、若干傾斜地であるところから、それに合せて設計されたものである。その後の建設小委員会において、多々議論を重ねて、本号の冒頭で会長の言にあるように、一応の結論をみたのである。

折も折、先日新聞で報じられたように、校舎改築問題がクローズアップされてきた。このことは、同窓会館の建設との関連で、重大な動きなのである。すなわち、同窓会に寄贈された土地三百坪は、同窓会館建設用地ではあつたが、同窓会が法人組織ではないところから、その土地を学校の方へ寄贈した形（道の所有地ということになる）にして、校地全体の中で、

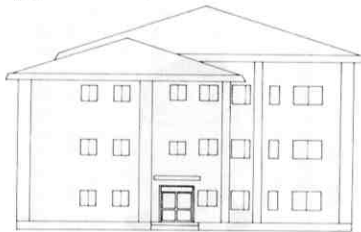
校舎に隣接する同窓会館の建設を考えているからである。今や、同窓会館の建設は、校舎改築問題と連動して対応しなければならぬ事態になっている。ここに提示した同窓会館の平面図は、建設小委員会で検討してきた構想に基づいて作成されたものである。小委員会は、ここでは一応その目的を果したことになる。今後は、新たに同窓会館建設実行委員会を組織して、設計及び資金の確保など、同窓会館建設への強

力な推進役を担うことになる。なお、建設実行委員会は、同窓会はもとより、母校PTA、後援会の協力を得て、三者から選出された委員をもって構成し、母校開校七〇周年の大事業として取り組まれる。同窓会館の建設までには、資金の問題ひとつをとっても大変なことであるが、神秘を削る丈夫の憩の場として、母校の伝統を守り高める上で、一日も早く、その実現が望まれるところである。（豊）

3階平面図



西面 (正面)



校舎改築問題と関連して考えられる同窓会館の正面図と450名収容の3階大ホール（中村校長の案による）

整形外科・内科・外科・リハビリテーション

医療法人 協立病院

院長 長谷川 敏 (湖4期)

帯広市西16条北1丁目 TEL (0155) 27-3355

創業 70 年

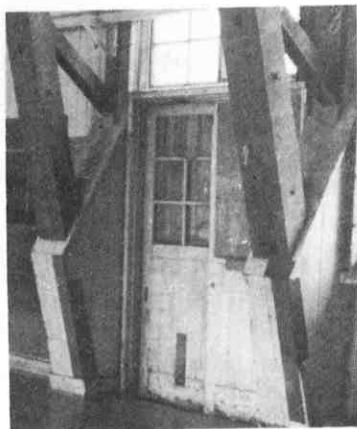
セ 成田餅菓子店

成田竹治 (鋼中30期)

釧路市南大通3-1-9 TEL (0154) 41-2874

立てよ乱打の 鐘がなる…

校舎改築促進期成会発足



老朽化した校舎の内外壁



「鉄筋コンクリート造りのはずが、実は木造であった。この驚天動地の出来事が湖陵ヶ丘に発生した。七月十日付けの釧路新聞に報ぜられた概要は次の如くであった。

「釧路湖陵高校の現在の校舎は昭和二十九年に建築され、延べ校舎面積は五千三百七十七平方メートル。道教委の登録では鉄筋コンクリート造りとなっている。道教委はこれまで老朽化した校舎の改築は木造校舎を優先させる考えを基本にして実施計画を進めてきた。

ところが昨年四月、同校の三階部分の壁がはがれたところ、鉄筋コンクリート造りのはずが、木板の下地が露出、この事態に疑問を持った同校が調べたと

ころ、三階の一部の棟上げした部分、鉄筋コンクリート造りではないことが判明した。またこのほかにも鉄筋が入っていないコンクリートが使われていない部分も見つかり、全面積の約三九割にあたる二千八平方メートルが木造であることが分かった。(略)釧路湖陵の調べによると現在の校舎は学校火災で焼失した二十八年度の翌年一年間で建設されたもので、この建設費には道費、市費、さらには市民からの寄付などが集められている。

このため、予算の関係から上の部分は木造構造が用いられて、開校を急いだ結果と見られる。」

この事態に對應するPTAを含むわが同窓会の行動はすばやかた。まさに、湖陵ヶ丘に風ありてのを感じて今年二月には道教委管理部に

事情を説明、六月九日には改築陳情のため、期成会の発起人会を充足させ、会長に鰐淵釧路市長を選出、道教委への陳情活動など改築実現に向けた活動をスタートさせた。六月の道議会特別委員会で、昭和三十三年以前に建築された鉄筋校舎の高校七校についても検討する」という教育長発言があり、この中にわが母校も含まれることがわかり、改築への期待と実現性が現実味をおびてきている。そこで来年は開校七十周年を迎えるわが母校の改築に同窓会が総力をあげてバックアップをし、全面改築に向けて、意気高く、協力の鐘を乱打したいものである。(北)

校舎改築促進期成会役員

▽会長 鰐淵俊之▽副会長 梅山源祝・村上史郎・伊藤正司・組村真平・成田清一▽理事 坂上洋治 佐渡保正・山本将・潮方祥一・工藤寿男・張江博治・田村佳男・長内宏・徳田瑛子・久本甫・神峯勇 遠藤隆吉・松原久幸・進藤修平・大西博一・妹尾継男・沼田昭典・今井恒夫・東山松蔵・齊藤昌彦・▽監事 濱野市郎・村上功三▽事務局長 小畑龍英(敬称略)

コンビニエンス ストア—

有限 山 きたやま 会社

北山幸男 (湖5期)

釧路市共栄大通6 TEL (0154)22-4490

株式会社 蝦名塗装店

常務取締役 滝沢泰雄 (湖4期)

釧路市南大通4-1 TEL (0154)41-6485

学園だより

学苑の苑に旦暮の三星霜

和 田 信 幸

あけくれ

本校は今年で開校七十年を迎えました。一六三六一名(旧中三四二六、高一二九三五)の多くの同窓生が、かつて十代の青春を過ぎた学舎も風雪に耐え、曲折をへながら歴史の流れを刻んできました。年輩の同窓生諸氏にとつては、鮮烈、茫漠の記憶が去来する長く、短かい時の流れでありましょう。

二時世を反映して現代っ子の湖陵健児も、氣質が大きく変わったとは言うものの健やかに、つつがなく生きています。

今年も八月、鹿児島県下で行われる高体連全国大会には、ハンドボール(男子)、羽根球(男子単)、陸上(男子四百米、四百米H)、宇都宮市での全国書道大会には中岡美緒(二年)、東京NHKで開催される放送コンクールには放送局(六名)が各々北海道の代表として出場決定し、母校の名譽をかけた最後の調整にはげんでいます。特にハンドボールの出場は昨年度の送抜大会に続く快挙です。

文武両道を目指す母校のもう一

つの側面をご紹介します。

昨年五月現在で生徒のクラブ参加は四人に三人弱ですが、特に彼らの多くは学習とクラブの両立に苦悩しています。入学当初から三年後の大学進学を目指すから進学路部のまとめによると、今春の卒業生の進路状況は別表の通りです。国立一期、二期の廃止、共通

一次試験の施行に伴ない、受験競争は一段と厳しく、かつ多様化の傾向を強め、「国易私難」、「私高国低」はまだしも、「日東駒専」、「関々同立」、「J A R W K」(いずれも超難関校の早慶は勿論、中堅私大が合格至難の意)など判読に苦慮する受験用語?に象徴されるように、今や道東の各門も進学競争に異状ありといった事態にあります。

今春の国公立合格者は八十九名(昨年は六十五)と、このところ続いた漸減傾向に歯止めをかけ、さらに増勢に転じました。旭川医大(四)、東大(二)は昨年並み、北大(十四)、樽商(〇)は不振

でしたが、昨年落ち込んだ道教育大(二十五)、弘前(十)、東北(四)、室工(七)、帯広、宇都宮(各二)で盛り返し、東工大(二)を初め京都、東京外語、電通、千葉、筑波など難関校にも合格者をだしました。私大関係では、合格者の延数(一一〇)は昨年を上回りながら実数(六十七)で昨年比十三名減とやや不振。順にあける日大(九)、東京理料(七)、法政、武蔵工(各六)、藤女、神奈川(各五)で現役合格至難の津田塾二名は健斗に値します。合格者の全てを女子で占めた短大は、札幌圏が難化、藤女、武蔵女(各

十一)、北星女(八)、天使女(四)の順ですが複数合格が多く、全体としても延合格者六十八名、実数三十七名がその辺りを物語っています。

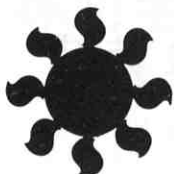
また高校女子の記録的な就職難が伝えられる昨今、しつかりした技術や資格を身につけるべく二十名程が看護婦、歯科衛生士、臨床検査技師などの道を選択し、就職第一希望者は全員が内定しました。紙面の都合もあり、今回は主に進路状況の概略をご紹介します、学園からの報告とします。

卒業生	就職者	大 学 進 学			短 大	種 修 各 専
		国 立	公 立	私 立		
434	30	81	3	67	37	39

(実 数)



太陽のように明るく暖かい真心で良い品をより安く
ご奉仕するセオチェーン



セオ

妹尾商店 釧路市新橋大通1丁目 ☎25-5345
新富士ストア 釧路市新富士駅前 ☎51-3467
愛国ストア 釧路市愛国37番地 ☎36-4295
白樺ストア 釧路市白樺台1丁目 ☎91-5423
昭園ストア 釧路市昭和190番地 ☎51-8853

司 法 書 士

佐 渡 保 正 (湖5期)

釧路市黒金町13-1-33
TEL 22-1020・23-6732

青春譜・湖陵ヶ丘

<6>

釧中32期 奥田達也

修学旅行

昭和三年六月一日の早朝、釧路駅から当時終点の標茶駅まで釧中四、五年生約二百名が汽車に乗った。五年生は軍馬補充部から弟子屈、川湯と一泊ずつ屈斜路湖、小清水、古樺駅へ徒歩旅行である。

一方、トラックで弟子屈へ向った四年生は強行軍をした。一級上への対抗意識は強い。弟子屈一泊を抜き美留和から摩周湖に寄り湖面の渚まで下りる。湖底をのぞきこみ感嘆の声を上げたが崖を登るのは大変な苦勞。さすがの若さも登り着いてくたが、すぐに川湯へ向かった。

熊の子二頭が木の枝にのぼっている。「可愛らしい」が強行の旅。山の中は暮れるのが早い。しばらくに進む四年生を引率の菅原寛也らは整列させ点呼をとる。

「六名が足りない」さき程までの鳥の声は熊の鳴き声に変っている。熊笹は茂り手には山霧が立ちこめた。三教諭は生徒を川湯へ引

率することにする。ただカメラこと菅原秀雄を一人居残らせた。大男で度胸もある。翌年の柔道部キックアップテンであり、弁士の手伝いもする心臓男。

一方、遅れた中西武三ら六人。

釧中生、熊に襲わる！ ラジオで札幌放送初失敗

熊がいるのに驚き、弟子屈へ一旦舞い戻り、おんぼろバスに頼んで乗せて貰い川湯へ向っていた。

谷川へ飲み水を探しにのぼる菅原。すっかりの闇に、かくてはこれまでと川湯へ進むも、道はわからず、疲れ切つてようように宿へ。が、食べるとなればそこは大食漢宿のおひつをたちまち空にする。

さて六人の捜索には提灯をもつて番頭が弟子屈へ向い、途中バスの運転手に見つけられる。

たまたまこの十三回生に豊井伝

之介がおり、茶目気たっぷりに自宅の富士屋ホテルへ川湯到着の便りを出した。

「六人行方不明騒ぎ」と「熊がいた」の連絡を富士屋ホテルにきた某紙の記者が耳にする。小さな話が大きくなり、このニュースは札幌放送局の六月五日の初放送として、ラジオの電波にのつた。三大新聞も事件として全国へ報道した。

道内は勿論、日本統治下にあった台湾、大連の中学からも釧中にお見舞の電報が殺到した。

翌日は網走中学と柔道、野球の対抗競技を行い、大勝して、五日午後八時に釧路駅に着いた。

と駅頭。朝倉広隆、菊池安三先生の出迎えは当然としても、父母や市民大勢のお出迎えに生徒たちは一驚、なぜなのか。

釧路新聞はそのかんのことを次のように報じている。

「釧中生遭難は真つ赤な嘘！初放送最初の失敗！学校側では大迷惑」

昨日午後八時の下り列車で帰つて来た釧路中学校四、五年生の修学旅行団二百余名に終わる奇怪な噂は目下市内にひろまっている。摩周湖付近で突如熊群におそれれ数名の行方不明を出したという戦慄すべきニュースなのだが、それは全く流言ひ語であるから世間の噂まど当にならないものはない。

この眉唾ニュースを道内一流の某新聞では札幌放送局の初放送として昨日午後提供した。これが市内のファンを驚かし、かかる噂を生むに到つたものらしい。また某新聞では本今朝刊に堂々と二段抜きでまことしやかに書き立てている。右に就いて学校側では「どうしてこんな出騒羅目な噂が世間にひろまったか解りません。熊らしい姿を見かけたといったあたりからではないでしょうか」と。

そんな大仰なことになっているとは知らない一行、五万分の一の地図をたよりに古樺へ向う。逆の方へ進んだりでラクダのマントは雨を吸いこんで重く、飯は歩きながら、ただ五年生に負けまいと強行した

同じ二日目の五年生は正午に川湯に着きクラブの風呂にゆつくりとつかつている。

古樺からの汽車は二汽車早く網走駅に着き、五年生を迎える十三回生の得意満面さ。凱歌をあげた。

釧路市議会議員

張江悌治(湖5期)

釧路市鶴ヶ岱3-4-2 TEL (0154) 41-5871

(株)近藤設備工業

代表取締役 近藤正義(湖5期)

釧路市錦町4-6-2 TEL (0154) 22-0369

当番期紹介

混乱期に巣立つた

釧中30・31期

釧中、湖陵の長い同窓史の中で釧中30・31期だけ、なぜ一緒にのか疑問の向きも多いと思う。

入学時は昭和17年の同期であった。それが戦後の混乱時代に時の文部当局の方針で5年を待たず、4年で卒業も可と認められ、数拾名の友が30期として卒業し、5年迄残った者が31期となった。従って両者は生れが同じ兄弟である。

純粋の釧中5年生は31期が最後でこの後は釧路高校(湖陵)1期への進学分離として出発して行った。この戦中混乱期に直面した我々は将に喰うや喰わずの生活を体験したが、優秀な者は陸士・海兵へ、更にあこがれのカッコイイ子科練・特幹へと同期から数拾名が学業半ばにして入隊して行った。終戦後、これ等の復学者の第2種軍用服が校内に巾を利かせた。戦後、社会及び家庭の復興が先決で、大学へは数拾名進学したものの、行けなかった百数拾名の仲間はその

ろに、同窓会への関心を持たせられることになる。

昨今は、息子・娘を母校に入学させることは難しい時代になったが、それぞれ高校に通いだし、自分の高校時代を懐しむ時期でもあるようだ。

我々十期は卒業以来、一度も集りを計画したこともなく、総会の当番ということで集まってみたら皆んなが同期会をやるうやという雰囲気。

各クラスの代表が決って、総会の相談やら仲間の消息などを語り合うが、アルコールが入ると結論が出ないまま、ネオンの街に繰出すこととなる。

この調子ではどうやら小田原評定が長びいて総会の準備に追われっぱなし。

同期会の開催の方は来年まわしになりそんな雲行である。

湖陵 20期

初めての

当番期に当って

戦後のベビーブームのピークと言われる昭和二十四、二十五年生まれが我々湖陵二十期であります。

(高橋 義雄)

(株)竹老園東家総本店

春採  湖畔

常務取締役 伊藤文雄(湖5期)

釧路市柏木町3番19号 電話 (0154) 42-6291番

婦釧の節は是非釧路の味

- 竹老園のせいそば
- コース
- 特にそば寿しをどうぞ

お帰りには竹老園の「汁の素」をぜひおみやげに。箱(12本入)で買いますと2本お得です。お申し付けくだされば宅急便で送らせて頂きます。

送料
道内 900円 関東 1,300円 関西 1,600円
営業時間 午前11時～午後6時 毎週火曜日定休

『男心の大嵐』

今も脈々と

小甲 幸一（釧十三期）



明治の気骨が、まだ身体のとどこかに僅かながら残っている私に青春に悔いなどある筈がないのに、もし、あつたとしても、剣道の残心よろしくとくに忘れ去っているのに。届けられた課題を見て実はびびりした。はて？悔いありとすれば、それは、何であろう。むしろ、壮年期から現在に至る間ではないだろうか、と考えた。つまり戦前から現在まで一貫して生きてきた自分自身に対しての自省だけが、鮮明に残っている。だから、湖陵高校の校訓が、釧路中学の誠、勇、愛の教育理念を継承したとしても、その中味は、全く別なものと考えている。

戦後のそれは、教育の内容をめぐり対立であるよりも、教育の場を借りた政争であつた。与党と政府と財界の三者共同の権力機構が、教育界の大きな部分を左右する力を持つたが、この強力な権力機構が、実は何一つ長期的な教育政策をもっていないかつたところに今日の教育上の悲劇が、あるような気がしてならない。

十数年前前に『期待される教師像』が各所で論じられた一時期があつたが、ある討論会で、これが三時間も続いてみんなが納得する結論が出なかつたことがあつた。最後に意見を求められた私は、今さら、よい教師とは、どんな教師だとか、期待される教師とは、を論じたり、書いたりするより、釧中第一期生中川久平先生の写真でも壁に張つてよい教師は、この人だ。この人は、校訓の実践者で、釧中の歴史的ストライキを指導した人だ。この人に続け。といつた方が、早いですよ。といつて大笑いになり、幕となつた。

わが青春に悔あり

スズラン薫る春採の

思いは遠くなつかしく

村山 栄子（湖五期）



私達の青春時代は、物には豊かではなくとも今の学生生活からみると心にゆとりがあり精神的にいい思ひはしませんでした。今にして思うともう一度あの良き頃に（過ぎ去つた日々は美しく感じるものでしょうが）戻りたい思ひかします。顧り見ると男子ばかりの学校へ初めて試験を受けに行き、荒れた校舎に驚き又広い体育館一杯に並べられた机を前にしてあがつてしまい答案用紙に本当に正確な答を書いて合格したのだろうか。と今だに不可解です。試験が終りホッとした気持で友達と一緒に福寿草を採りに行き遅く家に帰り、叱られた事も懐かしい思い出です。高校生活も少し慣れてからは時々授業をサボり春採湖でボートに乗つたり、午後から自習になると大楽毛にスズラン採りに行つたり、又体育の時間のスクエアダンスも思い出の一つです。No.8迄ある応援歌を憶えるのに苦心したあの頃ですが、今でも忘れず時々くちず

さむことがあります。人は環境に依つても左右されると思いますが今の自由な時代と違い私は一人娘という立場から自分のしたい事が思うように出来ない境遇にあり、テニス部に入部したのですが、遅くなるからダメ、けがをするからダメ、と親から反対され、毎日のようにそれを言われてとても続けられるような状態ではなく、断念してしまいました。又卒業後は東京の洋裁学校へ行きたく相談をしたのですがとても心配で出す事は出来ないと言われるまま素直に従つた私、今の自分から想像しかねる姿でした。良し悪しは別として自由に自分の道を選べたなら、と強く意志を通さなかつたのが、わが青春に悔あり。の一頁、又人生の方向づけでもあつたのでしよう。今ふと考える事の多くなつた此の頃何かを仕忘れた様なもどかしさが心にあり、何事によらず、自分に出来る事があればしてみたいという焦りを感じるのは年令の高くなつた証拠でしょうか。でも青春は一度限りではなくいつでも青春と、これからはすべてに悔を少なく、残された人生を、何事にも一生懸命生きたいと思ひます。

常に業界をリードする

ポスター・パンフレット・ダイレクト
メール・カタログ・カレンダー・事
務用伝票・印刷のことなら何ん
でもお気軽にご相談下さい。



米内印刷株式会社

会長 米内 富久司（釧中12期）

本社／釧路市堀川町 5 ☎（代） 23-0471

社会人一年生

久遠の使命胸に秘め

北教大附属釧路中学校

伊藤 千 里 (湖30期)

この四月から北海道教育大学の附属釧路中学校に家庭科の教師として勤めています。わたしは生まれも育ちも釧路で、学校もすべて市内(それも歩いて通えるところばかり)でしたので、教員の採用試験に受かり、健康診断も無事通過した時は、「今度こそ、親元を離れて一人暮らしたろう」と、期待とも不安ともつかない心境でした。ところが三月になり、教育委員会から、「附属中学校へ行ってみなさい」ということで、また親元から通うはめになりました(ただし、今度は徒歩ではありません)。



学生から教師になって変わったことが随分あります。まず、時間です。学生のころは、時には忙しいこともありましたが、やや時間をもてあまし気味に過していました。でも今は時間に追われています。秒刻みの生活といっても過言ではないと思います。大学を卒業したばかりなので、教師として、また社会人として覚悟なくてはならないこと、勉強しなければなら

訓の道を守りつつ

日本銀行釧路支店

佐藤 初 美 (湖34期)



つい先日まで、在校生であった私が、もう卒業生として、同窓会報の記事を書いているわけである、早いものだ、そして今は、社会人として「日本銀行」という、あまり一般人とは接触のない職場にはいる、四カ月が過ぎた。三月までは、学生として、またその中でも最高学年として、羽を伸ばしていたわけだから、今は、すべてが目上の人達の中で毎日が、緊張の連続であり、ある意味での戦いだ。学生時代は、早く社会人になりたいと思っていたのだが、今は、やはり学生の身分が一番、自由で楽しかったと、しみじみと感じる。湖陵高校という進学校の中で、就職する人は、ごく少ない。私も、三年の夏休みには、まだ進学するつもりでいたが、ふとした事で日銀を受けてみようと思ひ、そして今がある。それだけに、夏休みで帰って来ている友達に、うらやましく思うが、私は、この四カ月間あまりで、学生にはわからない苦労をし、多くの事を学んだ、大げさになるかもしれないが、社

会が、これほどむずかしいものだとは知らなかった。まだまだ「新人」として注目されている時であり、たとえば、言葉使いひとつで、変に誤解される場合が少なくはないのだ。私の想像していた、はなやかなOLとは、少し違うようだ。仕事上で、多くのお金を見る事があるのだが、不思議とそれはお金には見えず、単に紙きれにしか感じない。また、今までゆつくりとお金をながめた事がなかったが、すこく一枚のお札の上に見える色が使われているのを発見したりするものだ、そんなお金も、いざ、私のさいふの中にあると、やはり大事なお金であり、ありたいものなのだ、自分ではたらいもらったお金は、バイトでもらったお金や、ましてや、おこづかいとしてのお金とは、全く価値が違う。日本銀行という所は、他の企業とは違い、利益を追求する職場ではないから楽だ、といえは、そうかもしれないが、それなりの信頼を決して失うことがないように、頑張らなければならないと思う。

編集後記

▼夏休みの母校を訪れてみた。釧路にはめずらしい好天で暑さを感じる昼下がり、校舎はたしかに老朽化しているが、中では、湖陵祭の準備でもあろうか、生徒たちがにぎやかに活動をしていた。昭和二十八年初めの火災の際、建てられて間もない体育館だけが焼失を免れて、天井の梁の黒々とした突き出しに、伝統の重みを感じた。

▼見出しに校歌や応援歌の歌詞を使ったのは北明氏のアイデア。改めて、歌詞を読み深めているうちに、わが青春時代がなつかしく甦ってきた。

▼会報も、これまで年二回の発行を守り、ますます順調であるが、訓中、湖陵の歴史も相半ばとなり七〇年という時間と空間のひろがりが大きくなって、会報に盛り込む記事内容にも一層工夫が必要になってくる。「シリーズもの」で紙面をなんとか理める形になってしまっているが、同窓生諸兄からの寄稿によって、より充実したものにしたい(豊)。

投稿先 富士見一六一一労働事務センター内
同窓会事務局

編集にあずさわった人。
名倉 溥 徳田 広
八幡 弥平 遠藤 隆吉
渡辺 義一 豊島 弘享
北明 正敏 岩本 聖司